

【田舎館村教育委員会】

校務 DX 計画

村立学校で現在運用している統合型校務支援システムは、平成 26 年度に田舎館小学校で導入され、令和 6 年度に 2 度目の更新を迎えた。同じく令和 6 年度に田舎館中学校でも新規導入され、出退勤管理、同校内の教職員間の連絡や通知表等を同システムで一元管理することにより、日々の確認工程数の減少や他校からの異動に伴う校務処理方法の変更を最小限にすることで、教職員の多忙化への対策を行った。

次世代の校務デジタル化に向け、文部科学省が公表した「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」に示されている、教育委員会及び学校が教育 DX を推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現するため、本村において、次に掲げる事項を重点的に推進する。

1 校務系及び学習系ネットワークの統合

現在本村では教育ネットワークを、児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」、児童生徒が教育活動で利用する「学習系」の 2 つに分離し、インターネット経由で児童生徒の個人情報にアクセスできない構成となっている。教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化を目指し、ゼロトラストセキュリティの考え方にに基づき、アクセス制御によるセキュリティ対策を十分講じた上で、校務系・学習系ネットワークの統合について調査研究を進める。

2 校務支援システムのクラウド化

現在利用している校務支援システムは、オンプレミスで運用しており、学校現場において教務・保健・学籍・成績管理など様々な校務で利用している。しかし、学習系で生成されつつある膨大なデータと、校務支援システムに蓄積された校務系データとの連携が困難であったり、クラウドベースとなっておらず、自宅や出張先での校務処理ができなかったりするなどの課題がある。

教職員の負担軽減やコミュニケーションの迅速化・活発化できる環境を構築するため、校務支援システムの次期更新時（令和 11 年度）のクラウド化を目指し、学校現場の教職員と情報共有しながら調達事務等を進める。

3 次世代の校務デジタル化に向けた各種ツールの活用

上記 2 と合わせて、校務の効率化や授業の質の改善を図るため、授業支援ソフトやデジタルドリルで蓄積された学習系データ、MEXCBT などの教育行政データ、児童生徒の出欠及び成績情報等の校務系データなど、様々な教育データを自動的に収集・分析・加工して簡単にまとめ集計値や表、グラフなどで可視化するための管理ツール（データ連携基盤ダッシュボード）の導入や、セキュアな環境下での校務における生成 AI の活用に向けた検討を行う。

4 FAX・押印の見直し

令和5年12月に文部科学省が公表した「GIGA スクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があり、クラウド環境を活用した校務DXを大きく阻害していることが指摘されていることから、災害や教育ネットワークの不具合時、FAXの方が電子メール等より効率的な場合を除き、FAX及び押印の原則廃止に向けて、各種行政機関及び学校とやりとりのある事業者に対して、教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行う。